



小学校(中学年)における実践⑤(10月)

「あたたかい言葉かけをしよう」(ソーシャルスキルトレーニング)

○ 本時のねらい

あたたかい言葉かけの意義や大切さを理解させ、友達に発展させるための共感的なスキルを高める。

○ 展開(45分)

学 習 活 動	教師の働き掛け	準備物
<p>1 ウォーミングアップをする。</p> <p>「テレパシー」</p> <p>① 2人組を作り、1人が1～3までの数字をペンや鉛筆を通じて無言で相手に伝える。</p> <p>② もう1人が相手の送った数字を予想する。</p> <p>③ 先生の合図で、数字を一斉に言う。</p> <p>2 本時のめあてを知る。</p> <p>○ 友達の言葉かけで嬉しくなったり、元気になったりした場面を思い出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> あたたかい言葉かけの練習をしよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力する活動を通して、楽しく練習ができる雰囲気をつくる。 ・その場面で掛けられた言葉をあたたかい言葉としてまとめ、本時のめあてにつなげる。 	<p>めあてカード</p>
<p>○ あたたかい言葉を出し合う。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>3 モデリングを見て、あたたかい言葉かけのポイントを知る。</p> <p>【モデリング】</p> <p>I 離れた所から相手を見ずに、ひどい言葉を言う。</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・練習の場面で参考になるように、あたたかい言葉をたくさん引き出す。 ・場面によって使いやすくなるため「ほめる」「励ます」「心配する」「感謝する」言葉ごとに分けて板書する。 ・言葉かけをするT1を見ておくように伝える。 	

II ポイントを使って言う。



【あたたかい言葉掛けのポイント】

- 相手に近づく。
- 相手を見る。
- 「出来事+やさしい言葉」で言葉を掛ける。
→「練習がんばっていて+すごいと思うよ。」
→「昨日、荷物を持ってくれて+ありがとう。」

4 練習①をする。

(リレーでバトンを落とした場面)

【約束】

- ・はずかしがらない。
- ・ひやかさない。
- ・よいところを見付ける。



5 練習①の振り返りをする。

- (1) 振り返りシートに自己評価を記入する。
- (2) よかった友達を紹介する。

6 練習②をする。

(前日に早退した友達と翌朝学校で会った場面)

- ・ I と II のどちらがあたたかい言葉掛けのモデルだったかを確認して、出来るだけ児童からポイントが出るように発表を促したり、場面を再現したりする。

ポイントを示したカード

- ・ 練習をする時の約束を確認する。
- ・ 4人グループで「言葉を掛ける役」「掛けられる役」「見守る役」(2人)に分かれて、全員が役を交替して行うことを説明する。
- ・ 「見守る役」が、できていたポイントを伝えているか机間指導を行う。

ワークシート
2種類の顔マーク

- ・ 上手だった友達を紹介して、ポイントを全体で共有する。
- ・ 振り返りシートに自己評価をして、練習②で気を付けるポイントを明確にする。

振り返りシート

- ・ ワークシートに言葉を書いて、練習を始める。
- ・ 書くことが難しい児童には、練習①の言葉や板書されている言葉を参考に考えるよう伝える。

ワークシート

<p>7 練習②の振り返をする。</p> <p>(1) 振り返りシートに自己評価を記入する。</p> <p>(2) よかった友達を紹介する。</p> <p>8 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 振り返りシートを書く。</p> <p>(2) 全体で振り返る。</p> <p>(3) チャレンジ週間での取り組み方を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・①とは違い、いくつかの言葉掛けがあることを児童のモデリングを通して確認する。 ・練習で嬉しい気持ちになったかを確認する。 ・普段の生活の場面で言葉を掛けてもらうともっと嬉しくなることを伝えて、どんな場面で使えそうか考える。 ・チャレンジ週間の取組があたたかい学級の雰囲気、よりよい人間関係につながることを伝える。 	<p>振り返りシート</p> <p>チャレンジシート</p>
---	--	---

《参考URL》

- ・平成22・23年度佐賀県教育センタープロジェクト研究 小・中・高等学校教育相談研究委員会 http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h23/06%20kyouiku-soudan/index.html

○ 振り返りシートより

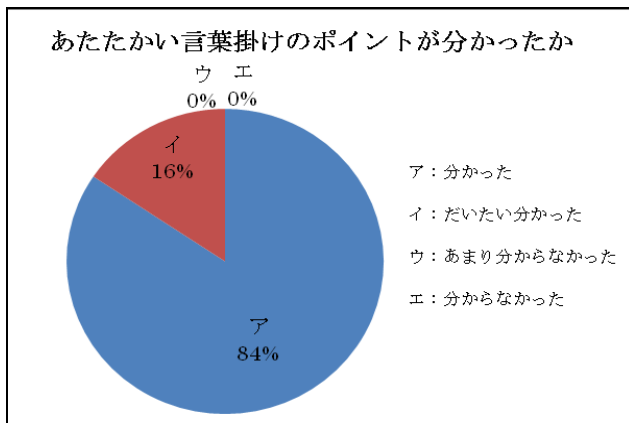


図1 授業後のアンケート結果

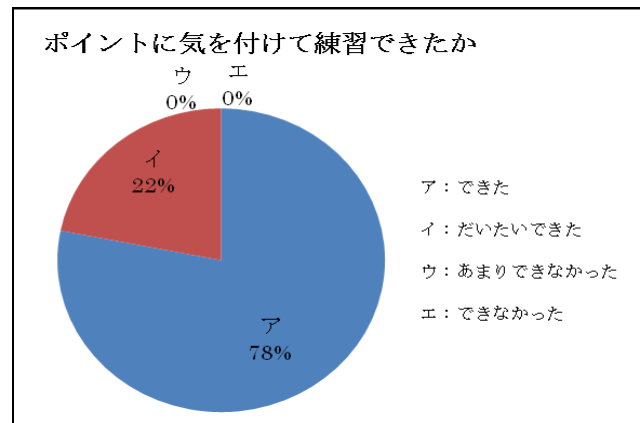


図2 授業後のアンケート結果

【集団について】

- ・みんながにっこり喜ぶことが少なかったから、あたたかい言葉かけが学ぶことができてよかった。
- ・これまで人の気持ちを知らずに嫌なことを言っていたかもしれない。でもこの学習をして、人の気持ちを知ることができて安心できる。
- ・練習だけど、あたたかい言葉を掛けてもらって嬉しかった。
- ・あたたかい言葉を言ってもらったら嬉しくなるから、これからもたくさんあたたかい言葉を使いたい。
- ・あたたかい言葉かけは、何と言うかが分かったのでよかった。

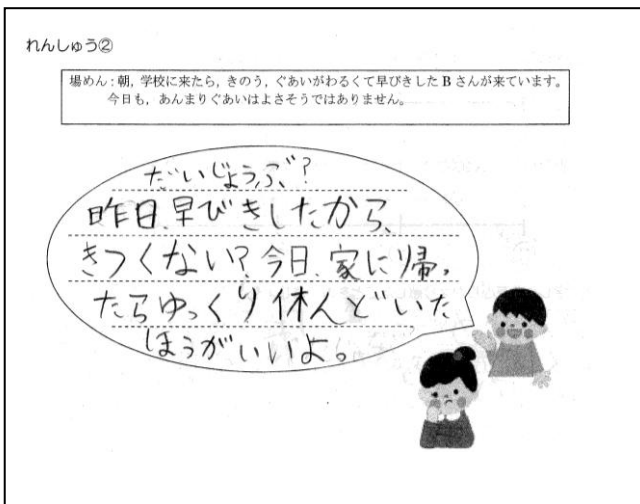
【個人について】

- A：人の気持ちを考えられた。意外に楽しかった。
- B：3回目の授業だったので、とても上手にできた。
- C：練習をしていい気持ちがいっぱいした。これからもやさしい言葉を使おうと思った。

○ 実践を振り返って

【集団について】

- ・あたたかい言葉掛けのスキルであるため、台本を読んで練習するようにした。また、練習②では、ワークシートに言葉を書いてから、それを読んで練習した。
- ・ソーシャルスキルトレーニング(SST)の授業が3回目であることから、練習のロールプレイでは、3つのポイントに加え表情や口調も考えて練習する児童が増えた。
- ・練習②で考えた言葉は様々だが、「出来事+やさしい言葉」のポイントを押さえて書くことができた(資料1)。
- ・ルールの確立に向けて取り入れたSSTの授業だったが、チャレンジ週間の取組では男女関係なくあたたかい言葉掛けをすることができ、リレーションの確立にもつながったと言える(資料2)。



資料1 練習②で児童が考えたあたたかい言葉



資料2 チャレンジ週間での取組の記録

- ・全てのポイントが向上しており、授業とチャレンジ週間での取組によって定着したと考えられる(図3)。また、「あいさつ」や「上手な聴き方」に比べると、授業で「あたたかい言葉かけ」について学習する機会がなかったため、スキルの獲得につながりやすかったことも考えられる。

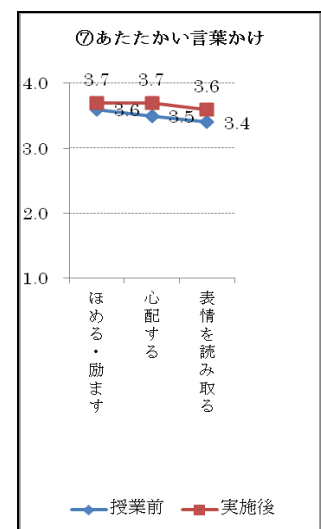


図3 集団のスキルの獲得状況

【個人について】

- A：場面を設定して練習することで、人の気持ちを考えることが苦手だと思われるAも考えることができた。学習後のチャレンジ週間でも「感謝する」「心配する」「ほめる」といった言葉を掛けることができた。
- B：あたたかい言葉掛けのポイントに気付き、積極的に発言した。
- C：練習では大げさにしていたが、チャレンジ週間では「心配する」「ほめる」言葉掛けの他に、けんかをした時に謝る言葉も言うことができた。
- D：授業は受けていないが、実施後のアンケートを取った。授業を受けていないためか、変容は見られなかった(図4)。

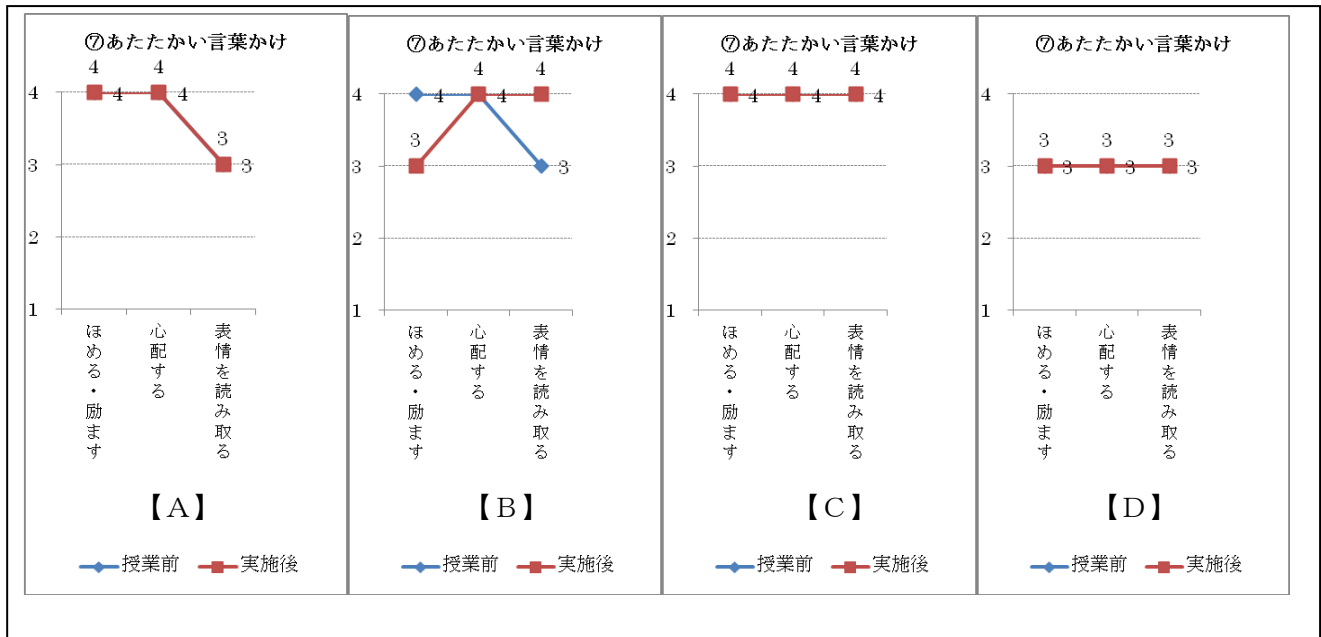


図4 個人のスキルの獲得状況